

UNITE
FOR
GOOD



草加松原ロータリークラブ

2025-26年度 UNITE FOR GOOD (よいことのために手を取りあおう)



第646回 例会 11月25日 草加市文化会館

＊＊本日のプログラム＊＊

開会点鐘	幹事報告
ロータリーソング	委員会報告
四つのテスト	SAA報告
お客様紹介	出席報告
会長挨拶	閉会点鐘

卓話 清水徳夫会員

11月18日の例会記録

- ◆ お客様 三井住友銀行草加支店長 山崎一徳様
- ◆ 会長あいさつ 木村博行会長

皆さんこんばんは、今日は支店長さんが来いますから手短かに終わらせて長く話しをしていただきたいと思ひます。ただ振り返りますと先週の日曜日の卓球大会から始まりましてその後、先週の火曜日には、少し遅れましたがポリオデー募金活動として草加駅に安田パリポリ君にも来ていただきまして募金活動をさせていただきました。

それと日曜日には地区大会、年に1回の大会があつて、プリティちゃんもスピーチしておりましたけれども、長い長い地区大会、1日中かかった地区大会が終わりました。これで、今年の大きな行事が終わつたのかなと思ひながらも、後で大塚さんに話していただきます会社訪問や12月のクリスマス例会、これはエレクトの森さん肝いりの方のマジック、および変面ショーなどがあります。そしてその後はまた7年ぶりにやる餅つき大会を今のところ企画しておりますので、まだまだね、年末までいろんな行事が続きますけれども、お体に気を付けて、皆さん、是非参加していただきたいと思ひます。

あと、この間、勝手に突撃訪問したところ、出していたい、今日は後ほど大塚さんに紹介していただく長谷川製作所さんです。こんなような会社です。来週の火曜日、訪問企画を大塚職業奉仕委員長が企画しておりますので是非！私が伺つた時には社長はいなかつたのです。

手を怪我している美人の奥様がいました。奥様と仲良くお話をしてきました。今度は、ちゃんと社長が会社創立の話とか、自分のやっている事業のことをお話していただけると思ひるので、ぜひ多くの方にご参加していただければと思ひます。
会長挨拶はといたします。よろしくお願ひします。

幹事報告 安田洋介幹事

皆さんこんばんは、幹事報告をいたします。今日は1件です。草加市暴力排除推進協議会から来年のカレンダーが届いております。お持ちいただけるよう後ろに用意しておりますのでお持ち帰りください。宜しくお願ひ致します。

今後のプログラム

12/2	誕生祝 オープン例会	レセプション
12/9	クリスマス例会	ロイヤルパークH
12/16	クラブ総会	レセプション

11月18日 ニコニコBOX

金額	19,000円	累計	299,000円
----	---------	----	----------

11月18日 出席報告

会員総数	37	出席	14
出席免除	5	MU	2
出席適用	32	出席率	50.00
米山奨学生 モンドル、プリティ ラニイさん			

国際ロータリー第2770地区第9グループ

草加松原ロータリークラブ

会 長：木村 博行
幹 事：安田 洋介

例会日：毎週火曜日 19:00~20:00
例会場：草加市文化会館
事務局：草加市青柳 8-56-21
TEL/FAX 048-967-5315
PC : sokamatsubara@abelia.ocn.ne.jp





グローバルマーケット動向について

三井住友銀行草加支店 支店長 山崎一徳様

皆さんこんばんは、只今ご紹介に預かりました三井住友銀行草加支店の支店長をしております山崎と申します。本日は、この貴重な機会をご頂戴いたしまして、ありがとうございます。30分ほどで、この今日ご用意しました2つの資料用いてお話をしたいと思います。

元々は「グローバルマーケット動向」というものを用いて、ここの所の為替だとかマーケットのことをお話ししようかなと思ったのですが、最近、我々のお店、支店の方は主に個人のお客様のご対応をさせてもらっているのですが、1番多いのが為替なのです。為替、これからどうなるのでしょうか！というような質問が多いのですが、はっきり申し上げましてわからないです。今日は中長期で見るという観点で為替のお話も分10程度混ぜられたらと考えていますので、よろしくお祈りします。

まず、「グローバルマーケット動向」こちらをご用意ください。こちらでお話ししたいこととしましては、ページおめくりいただきますと、2ページ目のところに要点が示されております。この資料、作成されたのが約1ヶ月前ということで、バージョンアップできていないので、私の方で少し肉付けしながらお話をしたいと思います。

2ページですね。「世界経済の見通しはやや改善、主要国の財政政策が注目点になります」ということで書かれています。今、トランプ関税による影響、色々出るのではないかとされている中、まだ想定されるほど影響が出ていないというのが今の状況かと思えます。一方、アメリカの方は個人消費の堅調で、あとはAI関連のところも堅調です。一部悪い話題とかも出ていたりしますが、アメリカを中心に改善されている傾向であるという風に言われています。そうは言いながら、日本もアメリカも株式は最高値圏で動いているような状況です。1番上のポチの2行目ですけれども、アメリカでは、2025年以内に連続利下げが見込まれると書かれていますが、12月の利下げはどうするのかっていうところ、まだ不透明ですよ！言われている通りでございまして、利下げする可能性は半々ぐらいではないかという風に言われています。特に、次のところである通り、アメリカは政府閉鎖してしまっていましたので、雇用統計が出ていなかったというところがありますので、43日間、政府のところ閉鎖されてしまったということで、11月20日頃に雇用統計が出ますので、それを見て値下げをするのはどうなのかというところを考えていることになると思えます。

続きまして、日本のところで言いますと10月のところ、高市新政権が発足しまして、責任ある財政政策を推進していこうということになっております。政府の方で話題になっていたのは、プライマリーバランスの黒字化、単年度でと、ということをちょっと言われていたのですが、高市政権の場合は数年で見えていくという風に方向転換しているのは良いことかなと思っております。日本は確かに借金大国ではありますが、我々国民にとって良くなる政策を打ち出していかねば、ただただこう財政のところ赤字国債発行するのはやめようとか、プライマリーバランスの黒字化に縛られて、何もできないと言う事は良くないのではないかと個人的にも思っておりますので、これから政権の方で何が出来るかというところに注目点があるのではなという風に考えております。

下の方に移っていただきますと、「景気見通しとマーケット動向」ということで、こちら、先ほどと同様に、アメリカは改善している傾向ではあるという風にブルーの色で示されておまして、下の注目ポイントというところ見ますと、これがネガティブなところになります、アメリカのクレジット市場、借金のところですね！こういう市場のところにつきましては、少し不安な数字も出ているというような形です。

日本の経済政策の行方はこれからも注視していく必要があるという形です。我々の三井住友フィナンシャルグループの話になってしまいますが、2、3日前ですか！上期の数字が出まして2,000億ほど上振れということで出ておりました。ただ、プラスの部分もあるのですが、マイナスの部分を見ますと、海外の貸出しに関しては、貸倒れ引当金積み増し、これを行っております。なので、我々の銀行として、私が決めたわけではないのですが、海外のことについては少しく返ってこなくなる、「デフォルトリスク」というんですかね、そういったところも少し数字として決算の内容が盛り込まれておりましたので、日本の金融機関としても、特に海外、海外の景気減速には備えているのだと肌で感じた次第でございまして、次のページ以降で少しお話を進めていきたいと思っております。おめくりいただきますと、3ページ目、4ページ目のところ、3ページは、高市新政権の期待感から日本株が史上最高値の更新というところで書かれています。私が記憶しているところによりますが、高市政権になる前は、日本株というのが4万8,000円台だと思われまして、石破さんだったころ、4万5,000円、もっと遡っていると、トランプショックと言われました。4月の中旬には3万1,000円～3万2,000円、ここまで下げたところでしたけれども、5万2,000円とつけていって、今調整してまして、4万8,000円後半ですか！という形になっております。円安になるということは、日本株にとって見ると、大まかまよい影響の方が強いという風に未だに言われています。なので、日本株にとってみると円安はそこまで悪くはないという風に全体では捉えられているというところは、まだそれも変わってない事実だと思われまして、次、4ページ目のところになります、日本の10年国債利回りに関してですが、17年ぶりに1.7%台に入りましたと書かれていますけれども、今日見てみると、1.73～1.75%ということでした。なので、日本の10年国債利回りの上昇をしているということです。アメリカも資料を作った時は、4%という利回りになっていましたが、今日は4.1%ぐらいで推移をしていました。なので、アメリカも利下げをしていくという風にずっと言われていたんですけど、利下げもなかなかちょっと難しいかもねという風な部分で最近思っている人が増えているのだろうなという風に感じております。為替は今、155円台というところで推移しております。5ページ目をご覧ください。5ページ目のところは「世界経済の見通し」の続きになるのですが、ここでご覧になっていただきたいのは左側のグラフのところをございまして、2010年から今までの各地域の成長率の推移と予想ということで書かれています。マイナスに突入している年は、20年コロナショックの年です。コロナの前に遡るとリーマンショックまで遡ります。我々からしてみると、海外に投資をするということは為替の影響がどうしても伴うので、なかなか実感はなかったり、日本の場合はバブル崩壊から株価が下がりましたので、なかなか右肩で増えていくということなかなか実感しにくいのですが、世界全体で見ると2000年以降はリーマンショックの年とコロナショックの年しかマイナス成長にはなっておりません。

中心となっているのは、この赤いところの新興アジアという所と、あとは先進国の所ですけど、そこで大部分占めてしまうのですが、大体世界経済は毎年いろんなリスクはありながら3%~4%の間、成長をしているという形になります。これからの予想も同様ですね！25年、26年度、3%以上の予想も上昇を予想されているという形になります。8ページまで進んでください。ここではシャドーバンキングに広がる疑心暗鬼と書かれているのですが、今アメリカの経済がどこの位置にいるのかをここで話したいと思います。

ポチの1つ目に、現在の米景気は好況期の終盤の「レイトサイクル」に当たると見ていますが、こうした時期は利下げ観測の高まりが経済や市場のセンチメントを下支えする一方、順調な景気拡大局面には見られなかった歪みや綻びが少しずつ出るといわれています。その歪みの部分ですけど、この下のグラフのところにあるのですが、左側の方はアメリカのKBW、地銀株指数ということですので、どちらかというとアメリカの大きな銀行というのは、地銀の方が、例えばデフォルトが起きてしまうと、そういうようなところも受けやすいので、そのこの指数の推移を見ますと若干影響を受けていそだなど思われたり、右側の方は、S&Bスタンダードアンドプアーズと有名なところが出している指数ですが、BDCという未上場企業向けの融資を束ねた上場投資会社、その部分の指数の推移でございます。ここの所、下落をしているということですので歪がすこしずつ出ているという風にアメリカの経済については、我々のグループ会社の作っている資料ですが、そこでは見ているという形になります。今アメリカのお話ししましたが、次、9ページは、日本の企業に話題を転じまして、高市トレードで進む円安の日本株価だということで、「責任ある積極財政」と「政府と日銀の連携」に動く金融市場ということになっております。ドル・円の推移と日経平均株価の推移のところが出ております。

これからは、政府の方でも日銀の方としっかり連携を取りながらと言われております。高市さんと日銀のところまで話をこれからどんどん重ねていくと思いますので、今までなかった政府の介入とまでは言いませんけども、政府の方でも対話を日銀としていくというところは、今までの政権にはなかった部分になっていくという風に思っています。日米のところを中心にお話をさせていただきました。10ページ目以降は、主要国の経済動向ということで書かれているのですけれども、同じような内容も入りますのでここは飛ばさしてもらい、これからの水準の予想とも言いましょうか、相場予想表、19ページに株式金利、為替政策、これの今年の年末及び3月末、9月末、来年の9月末ということで載せております。株価のところで見ますと、日経平均に関しましてもニューヨークダウに関しましても、今よりも少し高い水準、金利のところにつきましても、今よりも日本は少し高めの水準で予想されています。アメリカの10年債と同様です。為替に関しましては、ドル円が今152円ということでここでは載っていますが、今日は155円です。ここは147円ぐらいで12月末から来年9月ぐらいまで予想されているような形になります。

金利の部分ですけども、日銀の無担保コール翌日物金利ということですよ。今は0.5近辺ですけども、3月末には0.75、9月末には1と書かれていますので、あと2回くらい、来年の秋口までには利上げがあるのではないかと予想になっております。

あとFRBはっていうFFターゲット金利、これアメリカの金利のところになりますが、12月末は3.75で、来年の9月末3.75になっていますので、あと1回、2回利下げのところはあるのではないかっていう見通しになっております。マーケットのお話を簡単にさせていただきました。まとめとしましては、いろんなリスクっていうものはあるなという風に私も思っております。例えばですけども、来年のところのリスクっていう風に考えますと、一般的によく言われているのは、まずは中国リスク、これも言われます。中国の景気減速がするのではないかと！あと、デフレに陥って、かつての日本のようなデフレ体制になってしまうのではないかと。これはリスクだと思います。本当にそうなるかわかりません。あとロシア情勢のところ、今の原油価格、1バレル60ドル前後のところ動くような原油価格が長期化すると、ロシア経済が持たなくなる可能性があるのではないかと、これ一部で言われていることです。そうなりますと、戦争行っているロシアになりますから、プーチン体制が揺らいでいくこと、これも起こらないとは思いますが、リスクとして取り上げられるテーマにもなります。あと為替のところ、先ほど147円ということで、ここに書かせてもらいましたけども、私は毎朝モーニングサテライトというのを見ているのですけども、そこで今日の予想のところを出しているのですが、予想の中央値、2026年度は149円台っていうこと出していました。結構割れていまして、160円以上の円安になるのではないかって言っている方もいますし、中央値は149円のもの1番多かった予想は145円でした。次に多いのが150円と160円以上という形の予想する人によっても割れます。どこまでリスクを織り込むのかとか、そういうところになると思っていますので、ここのところは参考までという形です。

日経平均株価はっていうところでこれも出していたのですけども、54,000円台ということで、来年の年末のところでは予想している方が平均という形になっておりましたので、ご紹介までとさせていただきます。

残り10分ちょっと使いまして、外貨のお話をしたいと思えます。もう1つの資料をご覧になってください。これは、主にドル円の話をしたいと思えます。この資料は、「外貨のセミナー」を支店でやらせていただいています、その時にも使っている資料になります。ここで今日お伝えしたい点だけお話ししたいと思っています。2ページ、ここで話したいこととしては、為替という市場が多くの方が参加をしますので、なかなか短期的には当てることは難しいというお話でございます。外国為替市場はポチの2つ目、1日の為替取引高は967兆円に上りますって書いてあるのですけど、これすごい金額でございます、日本の株、上場している株の売買、平均すると大体5兆円~6兆円、毎日売買されています。日経平均が1万円にいかなかった頃は、1日1兆円に行ったら今日は大商いじゃないかっていう風に言われていた形ですから、それに比べますと今の5兆円、6兆円でも、大商っていう風に、普通に商いって言われている中で、967兆円と、とんでもない規模になります。なので、為替のところにインサイダーって概念もない、なぜかという、これだけ大きな動きをしますので、別になんか情報があったって言っても、あまり大事にはならないという形です。時々、オイルマネーがたくさん入ってきたのではないかとか予想されることは時々あります。それでも動くのは、何十銭とか、30銭とかそういう単位です。一気に動くと、何かがあったのではないかと風な感じと言われることが多いです。なので、短期的には色々な方が参加するのを想定するのは、ほぼほぼ無理だと私は思っています。中にはデイトレーダーの方はいらっしゃいますから、夜も寝ずにパソコン5台・6台に比べてやっている方もいますけど、ほんとこれ成功する方は一握り私は思っています。体も崩しますので、そういったこと、私は個人的にはしたくはございません。であれば、中長期で考えることができますっていうのが今日の私の最後のお話になるのでですけども、3ページでございます。為替レートのところにつきましても、中期、長期で見るとある程度想像ができるという風に言われます。ちょっと今日、皆さんで考えてみたいと思えます。ここにはで為替レートのところの話で、ちょっと読み上げます。

・為替レートは通貨の交換比率であり、株式や債券のような価値の裏付けが乏しいため、適正水準を見極めることは困難です。

・一般的な為替レートの変動要因として、財政状況をはじめとした7つの例を示しております。

・これらの変動要因が為替レートに与える影響の度合いは、その時々で異なります。

と書かれているものの、今の日本の状況を見てみたいと思っております。1から7までどちらなのかっていうところ、ちょっと丸をつけていただけたらと思います。

・まず1番目「財政状況」、我が日本はですね、政府の債務が高水準か低水準か、財政赤字か黒字か、これ赤字ですよ。右に○をつけて下さい。

・「貿易収支」のところになりますが、ここはで、少し黒字になっています。赤字の時もありましたが、こちらは黒字の方に今なっています。

・3番目「経済成長率格差」になりますが、これは格差ですから、海外諸国と比べて、日本は、高成長か低成長かっていうのは、比較的これは低成長の方に私はなるのではないかと考えています。アメリカ、中国、インドも、ヨーロッパに比べると成長率は低いです。

・4番目「マネーストック格差」これはちょっと分かりにくいのですが、民間にお金がどんどん、どんどん流れているかどうか、たくさんジャブジャブしているかとの話ですが、マネーストックの供給量は今の日本は多いと言われています。なので、これも右側のマネー給料が多いという方に○が打たれます。

・5番目「内外金利差」ということで、日本とアメリカ、ヨーロッパ、いろんな国々と比べ、日本は金利が高いか低いかっていうことですが、日本はですね、金利は低いです。利上げはちょっとずつ行われていますけれども、金利の水準としてみると、先進国で低いようです。これも右の方に打つていいと思います。

・6番目「物価上昇率格差」でございます、今日本は、3%程度、東京都だとインフレが進んでいます。インフレ進んでいて大変なのは、私もそうなのですが、アメリカの他の国に比べると、この格差って言うところでは、日本よりも海外諸国のインフレがまだまだ進んでいますけど、日本もインフレ進んでいますので、これは中立的でいいかなと思っています。どっちにつけたらいいのか私も迷うので、アメリカと比べると明らかに物価上昇率はないのですが真ん中ぐらいかなと思っています。

・7番目「地政学リスク」でございますが、最近ちょっといろんなことがあるので、私はちょっとよくわかりませんが、これも真ん中にしちゃおうかなと思います。基本的には、まだまだ世の中一般的には安全な国となので右でも良いのかとも思います。

となりますと丸が右か左か、どちらが多いかというところで見ると、「通貨安要因」の方右側に丸がつくことが多いです。なので、短期的には円高になることあるとは思いますが、日本の国を海外諸国と比べてみますと、円安傾向に動きやすいということが言えると思います。アメリカは最近利下げをしましたよね！利下げしたのですが、なかなか円高に行かないというのは、こういうことも一部要因としてあるのかもしれないなと思っています。

あとは、これの検証というわけじゃないのですが、1980年代、日本がバブル経済だった頃を思い返してもらいながら、三角とか四角度をつけていただけたらと思うのですが、この1~7の所、時間も限られてございますので私が勝手に言ってしまうのですが、財政状況を考えると、政府債務は非常に低かったです。まだ消費税が導入される前になりますから、政府債務も赤字国債も少なかったです。貿易のことに關しても、私もまだ大人になりきってなかったのであまり記憶にないのですが、日米貿易摩擦だとかそういうところで話題がたくさんあったと思いますけど、日本の貿易黒字は凄かったですね！昔、貿易黒字は凄かった。経済成長率の格差として見ても、今のインドとかちょっと前の中国ぐらいに成長していましたので、成長率は高成長！マネーストックのところについては、これ多いか少ないから、これちょっと判断に迷うので、真ん中ぐらいでもいいのかなと思います

が、今よりもマネーストックのところ、供給量は明らかに少なかったという風に言われます。内外金利差のところにつきましても金利が高かったです。どんどん、どんどん高金利、昔は公定歩合とおそらく言われていたけども、そこも海外と比べると高かったですから、預金金利も高かったですよね。

その代わり、借り入れするときの金利も高かったと思います。物価上昇率拡散は、こちらはインフレの部分も多々あったと思われま。地政学リスクはそんな変わらないので、これも真ん中でいいのかなと思います。今の日本に比べて真逆の動きです。通貨高の要因にかつての高成長だった頃の日本はそういう要因が多かったということで、確かに為替のグラフ見てみると、昔は360円だった為替ドル円のところが変動相場線に移動して300円を切ってきて1980年代はまだ200円を超えていた時期があります。それが1980年代後半にかけて、どんどん円安に進んで150円、140円とどんどんどんどん日本の為替が強くなって、良い意味での日本の国の強さが、の方に向かわせた時代だったと思います。今日は、ここまでがメインのお話になるのですが、次のページ目以降はそれを詳細に例えば4ページでありましたら、日本のGDP国力がこれから先は残念ながら落ちてしまう予想になっているという事実であります。あとは、人口も日本は減っていきます。昔の日本はどんどん、どんどん働く人が増えて、今で言う私の父親も団塊世代、まさに真ん中の中の間人ではありますけど、団塊世代がどんどん就職していく時っていうのは、日本がどんどん成長した時代です。今は人口が減っていきまして、生産年齢人口というところでいきますと、先進国の中ではどんどん減って地位も下げていく予想に残念ながらなっています。

5ページ目のところにも少子高齢化の影響ということで、ここにまさに生産年齢人口の話が右下に載っているのですが、今は15歳~64歳の人口が60%ありますが、2050年には53%になるという予想です。

あと6ページ目のところ、これも1点だけですが、政府債務残高が多いというところはさて置いて、右側の歳出歳入のバランスを見ますと、日本は少子高齢化、社会保障費が増える、成長も鈍化するの財政悪化になるという、この負のスパイラルになる。ここから残念ながら、抜き出すのは難しいと思うのですが、赤字国債もどんどん発行しなきゃいけませんし、政府は難しい環境に思いますが、借金はなかなか減っていかないという状態は続きます。次の7.8ページのところでは、我々の日本、私も生活していて、物の値段がどんどん上がっていると実感しますが、エネルギーであったり食料であったり、自給率が非常に低いですから、その中で円安が進んでしまうと、輸入物価、飲食料品、石油、石炭、天然ガス、全部上がってしまっています。8ページ目の方でも、左側の表の消費者物価指数の推移になってご覧になっていただくと、2015年の頃は、2020年を100として考えますと、2015年の方が全て、ほとんどのものが安かった。2020年から25年にかけて、たったの5年間ですけれども、1.1倍からコメなど2倍になっているということですから、やっぱり値段が上がっていますということです。

右の方は、100万円のところ、インフレがね、年間3%・4%でずっと続いてしまったらと、これは恐ろしいデータですけども、3%でずっと続いてしまうと、お金の価値は、何もなかった場合、74万円の価値に10年度はなってしまいます。4%のインフレが進んだ場合は68万円ということになります。なので、こういうことを考えていくと、やはりこれからインフレが収まるってということなかなかなさそうだなという風に私も思います。なぜかという、円安がなかなか止まらないという風に考えております。円高になってくれた方が私はいいなという風に思っておりますが、円安方向に向かいやすい時代だからこそ、例えば外貨建ての資産の割合みたいなものも増やして行って、円安になっても自分で持っている個人の財産が増える、円安になっても困らないようにしていく。特にアメリカだと今金利が3%~4%つきますので、その部分でインフレが補えるという考えにもなると思います。私も個人的に自分で持っている財産の半分はアメリカのドル建ての資産の源になっております。自分の例えば生命保険であるとか、あとは貯めているお金の中でも将来使うお金についてはインフレに備えるということもやっております。最近、面白いデータがありまして、日本も昔から、NISAは10年以上前からありますけども、NISAの口座を持っている大人の方の割合が、2割5分ぐらいあるらしいです。しかし空っぽの口座を持っている方も中にはいるわけですし、実際NISAの口座を利用している方の割合は10%後半という風に今言われています。10%後半というものが加速度的にこうどんどん増えていく分岐点と言われるようで、日本のNISAっていうのも、元々はイサっていうイギリスのものを習ってやっているわけですけども、海外諸国、アメリカもそうで、そうだったんですけど、約2割の方が運用していく局面になると、どんどん運用する方が増えるという風に言われているので、今分岐点を迎えているなんていう風にいう専門家の方も多くいらっしゃいます。

アメリカというのは日本と違って若いうちからこう金融教育みたいなものを受けている方が多くて、学校のカリキュラムに金融教育組み込まれています。我々の方でも、草の根の活動のように、小学校であるのか中学校、そういったところに出向いて金融経済教育することもあるのですが、日本も、アメリカと同じように資産効果っていうものがどんどん出てくると言われていまして、ただ預金に置いておくというよりも、少しだずつでも運用の方を続けていくと言う事で、お金の持っている方がさらにお金を生み出すという時代になっていくだろうと予想されています。なんて言いますか、言葉選ばず、誤解を恐れずに言いますと、貧富の差って言うのしょうか！地味係数なんて言われますけど、そういうところでの日本も上と下の差って要は開いてしまうのではないかと！その部分をどう補っていくのかっていうのは我々金融機関の使命でもあるのかなという風に思っております。

お時間になりましたので今日はここまでとさせていただきます。今日は、運用のお話と外貨の話とということやらせていただきましたけども、何かご相談事等あれば、おっしゃっていただければもちろん承らせていただきますので、何卒よろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

職業奉仕委員会からお知らせ

大塚嘉一奉仕委員長

職業奉仕委員会からの報告でございます。25日火曜日午後2時から職場訪問を予定しております。長谷川製作所で、寺社のお守りやお札などの授与品奉製業をされている会社です。前回ご紹介した時は、親父さんが作られた手作業の会社をコンピューター管理でやる、その展開が面白い、見どころだよって申し上げたのですが、もう1つ付け加えますと、職場が明るい！皆さんの会社どうですか！会社に行くときみんな職員が明るいのです。その辺の、秘密なども長谷川社長に話してもらえないかと思っています。当日社長は、用意するとおっしゃって下さっているのだけでも、出来れば乗り合いなどできていただくと良いかと思えます。谷塚ですがバイパスを東京の方行って、左に入る感じです。右側に大きなホームセンターがありますので宜しくお願い致します。ためになる会社ですので皆さん奮ってご参加下さい。宜しくお願い致します。

長谷川製作所会社見学

《参加者》

木村会長・安田幹事
大塚会員・加藤会員
関根会員・鈴木会員
森会員・二階堂会員
事務局 荻田



- | | |
|----------|---|
| 木村 博行会長 | 三井住友銀行草加支店、山崎支店長ようこそ！卓話楽しみです。やっとな秋らしい一日ですね。一年の締めくくりに向けまだまだ頑張りましょう。 |
| 安田 洋介幹事 | 皆さん先日の地区大会、お疲れさまでした。本日は山崎支店長の卓話楽しみにして参りました。宜しくお願い致します。 |
| 坂田 一人会員 | 山崎様、本日はありがとうございました。 |
| 牛山 信康会員 | 一気に寒くなりました。三井住友銀行草加支店、山崎支店長さんようこそ！ |
| 大塚 嘉一会員 | 寒くなる予感、季節が？財布が？ |
| 加藤 芳隆会員 | 三井住友銀行草加支店、山崎支店長今日はお忙しい中、卓話ありがとうございます。宜しくお願い致します。 |
| 北畠 文康会員 | 三井住友銀行草加支店長様、本日はありがとうございました。地区大会お疲れさまでした。 |
| 竹村 美保会員 | 三井住友銀行支店長様のお話を楽しみに参りました。宜しくお願い致します。 |
| 田中 和郎会員 | 山崎支店長、卓話ありがとうございます。 |
| 二階堂 祐司会員 | 寒くなりましたね、昨日から床暖房を入れました。山崎様本日卓話宜しくお願い致します。 |
| 長谷部 健一会員 | 三井住友銀行草加支店、支店長の山崎一徳様本日は卓話ありがとうございます。 |
| 森 勇一会員 | 16日の地区大会へご参加いただきました皆さんお疲れさまでした。植松社長の話し、感動しました。『仕事とは大好きなことが人の役に立っちゃって、必要とされること』私も今日から心を入れ替えて頑張ります。 |
| 渡辺 直之会員 | 三井住友銀行山崎様、本日は卓話、ありがとうございました。 |